

NYダウと日経平均の連動性(その2) 【編集】[投資・経済全般]

昨日に引き続き、今日もまたNYダウと日経平均との連動性は続いている。昨日のコラムでは、NYダウの前日比と日経平均との関係を報告したが、それ以外にも、NYダウの日差やギャップと、日経平均との連動性を定義することが出来る。

まず、NYダウの日差と日経平均との連動性についての結果を以下に示す。なお、以降のデータは先週末時点までのものである。

[対NYダウ日差]

	昨年年初来	今年5月GW明け以降	今年6月以降
前日比	54.1%	55.9%	76.5%
ギャップUD	72.7%	73.5%	88.2%
日差	39.3%	47.1%	70.6%
共通立会日数	351日	34日	17日

前日比については、NYダウが陽線引けた翌日に日経平均が上がるか、NYダウが陰線引けた翌日に日経平均が下がるかのいずれかが起こった割合を示している。

ギャップUDについては、NYダウが陽線引けた翌日に日経平均がギャップアップして寄付いたか、NYダウが陰線引けた翌日に日経平均がギャップダウンして寄付いたかのいずれかが起こった割合を示している。

日差については、NYダウが陽線引けた翌日に日経平均が陽線引けたか、NYダウが陰線引けた翌日に日経平均が陰線引けたかのいずれかが起こった割合を示している。

次に、NYダウの寄付きにおけるギャップアップまたはギャップダウンと、日経平均との連動性について、以下に示す。

[対NYダウギャップ]

	昨年年初来	今年5月GW明け以降	今年6月以降
前日比	51.6%	67.7%	64.7%
ギャップUD	50.7%	61.8%	64.7%
日差	51.3%	58.8%	58.8%
共通立会日数	351日	34日	17日

前日比については、NYダウがギャップアップして寄付いた翌日に日経平均が上がるか、NYダウがギャップダウンして寄付いた翌日に日経平均が下がるかのいずれかが起こった割合を示している。

ギャップUDについては、NYダウがギャップアップして寄付いた翌日に日経平均がギャップアップして寄付いたか、NYダウがギャップダウンして寄付いた翌日に日経平均がギャップダウンして寄付いたかのいずれかが起こった割合を示している。

日差については、NYダウがギャップアップして寄付いた翌日に日経平均が陽線引けたか、NYダウがギャップダウンして寄付いた翌日に日経平均が陰線引けたかのいずれかが起こった割合を示している。

これらの割合が大きいほどNYダウと日経平均との連動性は高くなり、50%ならば連動性はなく、50%を下回ると逆連動性となる。

なお、共通立会日数は、NY市場と東京市場がいずれも立会日だった日数の合計で、NY市場と東京市場のいずれかが休場の場合は、カウントしていない。

さて、NYダウの日差と日経平均との連動性を見ると、昨日のコラムで報告したNYダウの前日比と日経平均との連動性とほとんど同じであることが分かる。

これはいったい何を物語っているのだろうか。それを探るために、NYダウの前日比、日差、ギャ

ップ間の連動性を調べてみた。結果を以下に示す。

[NYダウ内の連動性]

	昨年年初来	今年5月GW明け以降	今年6月以降
前日比vs日差	97.0%	94.1%	94.1%
前日比vsギャップ	54.5%	58.8%	58.8%
日差vsギャップ	51.8%	52.9%	52.9%
立会日数	371日	34日	17日

これを見ると、NYダウにおいては、前日比と日差との連動性が極めて高いことが分かる。すなわち、昨年年初来で見て97%以上の割合で、NYダウが陽線引けした場合は前日比プラス、NYダウが陰線引けした場合は前日比マイナス、となっていることが分かる。

ただし、これは実は不思議なことではない。実際の株価データを見てもらえれば分かることだが、NYダウは寄り付きにおけるギャップがほとんど生じないのである。

したがって、寄り値は前日の終値とほとんど等しく、その結果、前日比と日差との連動性が極めて高いことになる。

また、それらの事実から、NYダウのギャップと日経平均との連動性の結果については、あまり意味がないということが言える。

NYダウでギャップが生じない理由については分からないが、少なくとも、NYダウ連動銘柄を用いたギャップトレードが上手くいかないことは明らかである。

日本市場では大きなギャップが生じることは珍しくないが、これは、日本市場がNY市場に連動しやすいことに加えて、取引時間外における経済指標や企業情報の発表が多いからであろう。もしこれらの情報の多くが、取引時間内のみにもたらされるようになれば、ギャップは縮小の方向に動くだろうが、その反面、日差は拡大することになると考えられる。

日本では投資家間の平等の観点から、個人投資家が情報を得にくく売買しにくい取引時間中の重要情報の発表は、できるだけ控える傾向にある。この傾向が続く限り、日本市場においては寄り付き時のギャップが生じ、ギャップトレーダーは生き残れる可能性がある。

最後に、日経平均内の連動性についての結果を以下に示す。特にコメントはしないが、興味のある方は、いろいろと想像してみてください。

[日経平均内の連動性]

	昨年年初来	今年5月GW明け以降	今年6月以降
前日比vs日差	80.7%	85.7%	82.4%
前日比vsギャップ	68.9%	74.3%	76.5%
日差vsギャップ	49.6%	60.0%	58.8%
立会日数	363日	35日	17日

2006-06-27 16:09 nice!(0) コメント(0) トラックバック(0)
共通テーマ:株